

【奨 励 賞】



氏 名 SANTOS SHIINA
(サントス シイナ)

国・地域 フィリピン 

在日期間 2年

学 校 九州日本語学校

タイトル : あの扉を開けよう！

皆さんに聞きたいことがあります。ドアとは何ですか？誰でも知っているように、人が出入りするように、開けたり閉めたりするものです。だけど私にとってドアは、新しい始まりと悲しい終わりだと思えます。

なぜそんなふうに思うかと言うと、ドアを開けると、いろいろなものを考えたり、期待したりしませんか？例えば、学校に行く時、教室に入ったら、「今日はなにをやるんだろう？」とか「今日はなにを学ぶんだろう？」など頭の中に浮かびませんか？おかしいと思われるかもしれませんが、私はそんなふうに考えます。ドアを開けると言うのは、新しい人と会える。新しい経験をする。新しい価値観を得る。その中に何かがある。ということです。けれどその反面、悪いことが来る可能性もあります。人生、ずっといいことだけ来るわけがありません。

私もこれまでの人生でいろいろなドアを開けてきました。日本とフィリピンのハーフとして生まれた私は、保育園から高校生までフィリピンで育ちました。日本の国籍を持っていることで、中学生の時は、同級生たちに「おごって」とよく言われました。同級生たちは私がお金持ちで、家が大きいのと思っていました。本当は、家族と地味(Simple)に生活をしているのに、私が鹿児島に遊びに行くたびに、お土産をねだられました。だから、周りの人をうとうしいと思うようになりました。

しかし、次のドアが開き、高校生になると、中学生の時とは違い誠実な友達とたくさん知り合いました。このような友達を私はずっと望んでいました。悪い時にも良い時にもずっとそばにいて、今でも友達です。

ドアを開け続け、私は母の国、日本に来ました。このドアを開けるときは、不安もありました。私は日本語があまり話せなかったので、日本語学校に通うことになりました。日本語学校には、いろいろな国から来た学生がいます。最初は外国人と仲良しになることはできないだろうと思いましたが、それはまちがいでした。私には今、たくさんの友達がいます。フィリピンで、私は無口な人でしたが、今の私はとてもおしゃべりです。

人生において、人々が歩む道は異なります。それぞれが選んだ道に理由があります。

けれどその道だけしかないというのは、違います。それが「私の運命だ」と思っても、もう本当にダメなら、無理しない方がいい。世の中にはそれよりきっともっといいことがあるでしょう。ひとつのことだけに苦しむのは自分自身を壊すことです。部屋みたいに、その部屋に入って、中にいて、苦しかったら、その部屋を出たくなる。そして一瞬出て、ドアを閉めて、「ああ、もう終わりだ。」と思い込みます。道はひとつだけではありません。絶対もっといいことが待っています。

私の知っているお姉さんやお兄さんたちは、「あなたはまだ若いから、人生のことはまだまだ分からないよ。」と言います。そうです。私は若いです。でも、年齢に関係なく、意見くらい言わせてください。

人生は一度しかありません。自分の前に扉があれば、思い切って開けましょう。失敗するのは当然です。困ったことがあっても、次の扉があなたを待っています。